

◆産業振興ビジョン全体について

内容		委員意見	対応の方向
【第2章】 これまでの 主な取 組状況	1	前回のビジョンに基づいた施策をして、その結果がこういう形で出ているという説明が抽象的。	・第2章「これまでの主な取組状況」に加え、第8章「資料編」に主な取組内容を詳しく記載するようにしました。(61～71 ページ)
【第3章】 札幌産業 を取り巻 く環境の 変化	2	・「直近5年間の売上が増加したと答える企業の割合は増加し、減少と答える企業の割合は大幅に減少」と記載あったが、利益でみると、依然として増益と回答した企業よりも、減益と回答した企業の方が多い。 ・このことをビジョンで表現したほうがよい。	・利益について、増益と回答した企業(29%)よりも減益と回答した企業(34%)の割合が多いということも記載するようにしました。(14 ページ)
【第4章】 改定の考 え方	3	若者の流出を止めるとあるが、私はどんどん流出させるべきだと思っている。これからの我々にとって、札幌企業の市場になる国内外を知った段階で呼び戻すという、U・I ターン対策が重要。	・横断的戦略 3「札幌経済を担う人材への支援」の柱の 1 つである『道外からの人材誘致』において、東京圏に進学した道内出身学生などの UJターン就職支援体制の強化を図り、学生のUJターンを推進するとともに、即戦力人材のUJターンの促進を図る記述を入れます。(59 ページ)
	4	道内企業の意識改革とビジネスに対する構造改革が必要。それをイントロの部分で、「あなたたち、さあいきましょね」ではなく「まだ基盤は確固たるものはない、さあ、こうやってしっかりとしましよ、商売を変えましょ」と、この産業ビジョンの動機づけにすべき。	・第3章では、取り巻く環境の変化や企業の意識について、データを用いて説明しており、第4章ではこれらに的確に対応するため、「道内市場の縮小への対応強化」、「魅力ある雇用の場を創出する観点を強化」、「市内企業の人手不足感の高まりへの対応強化」の観点から、改定の考え方をまとめることで、改定の方向性を示しています。 ・また、第5章では、基本理念を掲げ、市民、企業、行政が一体となって挑戦することとしています。(24 ページ、25 ページ)
	5	どの市場を狙っていくと札幌市内の企業の強みが生かして、さらにこの強みを生かすために、地域としてどのような支援企業や専門家がいれば、その地域にアプローチできるのかというような議論が加われば、より具体的になると思う。	・札幌経済をけん引する重点分野を設定し、この分野に関連する市場を重点的に支援することとしています。(29 ページ) ・また、具体的な施策の展開に際しては、ご意見を踏まえ、ターゲットを明確にした戦略を事業ベースで展開します。
【第5章】 改定版ビ ジョンの 全体像 (基本理念)	6	「厳しい時代を迎える」、「この大きな転換期」という記載があるが、これまで色々な時代があり、今戦っている人は十分このことを理解しながら仕事をしているわけで、この記述の強調はほどほどにしたらどうか。	・これまで札幌市は一貫して人口が増加しており、それを前提として産業も成長しておりました。しかし、その前提が崩れるという意味において、「大きな転換期」と表現しておりましたが、記述の見直しを行い、「このような時代の中で」、「この転換期」という表現にしました。(26 ページ)

前回審議会 (H28. 3. 28) で頂いた主なご意見と対応の方向

資料 1

	7	企業がこの方向に向かって挑戦して行動すればこんな未来が札幌におとずれて、さらに個別企業もこういうことが実現できるということが見えるような産業振興ビジョンにしたほうがよい。	・産業振興ビジョンでは、「目指す姿」を設けており、これを実現するための「施策展開の方向性」について、体系図として掲載します。(28 ページ)
	8	基本理念「地域の魅力と人の活力が作り出すチャレンジ都市さっぽろ」は受け身の文章。「連携したチャレンジ都市さっぽろをつくろう」というような書き方にしたほうがよい。	・ビジョン本文に、「市民、企業、行政が一体となって他都市に先駆けて新たな取組に果敢に挑戦していくこと」を示します。(26 ページ)
【第 5 章】 改定版ビジョンの 全体像 (基本的な 視点)	9	「北海道の発展なくして札幌の発展はない」というスローガンが掲げられていて、「道内で」、「オール北海道体制で」、あるいは「道内循環の拡大」ということを随分強調しているが、どう関わっていくのかというのが伝わってこない。	・道内連携の観点は、中長期的な視点に立って産業振興を図っていくために必要な視点として盛り込んでおり、個別の事業を構築する際の重要な指針としています。(27 ページ)
	10	「道内市場の縮小を受け」とあるが、中小企業個々のシェアは非常に狭くて、開発の余地は大きいので、逆に中小頑張れということで、まだまだ開拓はできるのだぞ、市場はあるのだぞという捉え方をしたらどうなのか。	・中小企業の新製品開発、販路開拓などに対しての支援は引き続き行っていくことには変わりはありません。 ・その上で、札幌経済の発展を北海道全体の活性化に結び付けていく「道内循環の拡大」を進めることと、道内市場の縮小が確実な中、「道外需要の開拓」を進めることの両方に取り組んでいきます。(27 ページ)
【第 5 章】 改定版ビジョンの 全体像 (数値目標 の設定)	11	2014 年の内閣府の企業調査の中で、企業の利益の 55%は内部留保、従業員への還元は 54%となっている。利益を従業員に還元しないと意味がない。従業員に適正に労働分配して、いわば利益を還元してくださいということを的確に言ったほうがいい。	・企業の収益を従業員にどのように配分するかは個々の企業の経営判断に委ねられるものと考えています。このため、企業が安心して収益を従業員の給与に反映できるよう経済環境を整備していきます。
	12	数値目標が本当に大丈夫なのかというような見方にならないように、ある程度この層で、この業種でどのぐらいの売上、あるいはこのエリアで何名ですといった、イメージを整理したほうがいい。	・従業者数については、道外への転出入数の改善や、就労意欲ある女性や高齢者の就労を促進することで目標を達成する考えを整理しています。 ・売り上げについては、直近 4 年間の市内総生産の伸び率を上回る年平均 1%の上昇により、達成する考え方としております。(31 ページ)
	13	このビジョンには付加価値の高い分野をもっと振興していくということが目標としてあると思うので、例えば産業分野ごと、あるいはここを厚くしたいという数値目標みたいなものが出たらいい。	・「まちづくり戦略ビジョンアクションプラン 2015」や「さっぽろ未来創生プラン」などの札幌市の他の行政計画では、分野別の目標を設定しており、その中で詳細な進捗評価をしていきたいと考えております。

◆重点分野

内容		委員意見	対応の方向
観光	1	重点分野の「観光」の一つ目に、定山溪などの観光資源と書いてある。定山溪をなぜ入れたのかが気になる。	・定山溪は、温泉のほか自然体験、散策、食など様々な魅力があり、札幌の滞在型観光を語る上では外すことのできない地区と認識しております。(33 ページ)
	2	MICE 施設整備の検討ではなく、充実ではないか。	・「MICEの受入基盤の強化・充実」という文言を追加します。(33 ページ)
	3	「観光」は札幌だけではなく、札幌と近隣や道内各地に対してどう観光がつながっていくかということも、ぜひ記載していただきたい。北海道を訪れる観光客のほとんどが札幌にも訪れるので、札幌で何をやるか、札幌から連携、シナプスとして伸びていって、道内がどうなるのかということも記載してほしい。	・近隣市町村や道内外諸都市と連携し、観光客の周遊を促進させる取組を進めることを記載します。(33 ページ)
	4	観光客の半数以上が道内観光客という中で、この根底を崩さずにインバウンドを考えるという考え方を持っていたほうがよい。	・来札観光客に占める道内観光客の割合を示すことにより、道内観光客の重要性を認識するとともに、インバウンドの必要性を導く、現状分析と課題を記載し、取組に反映しています。(32 ページ)
食	5	「食の魅力を生かした付加価値の向上と食産業の基盤となる安全性の確保」について、付加価値向上のためには、6次産業化の推進だけでは足りない。食品メーカーの新商品の開発力を向上するような手助けができればよい。	・6次産業化の取組支援を例示した上で、道産品の付加価値を向上させることを記載します。(35 ページ)
観光・食	6	「観光」や「食」の振興では、多様なメディアを活用していくことでの魅力発信をすべき。	・多様なメディアを活用して、観光プロモーションや魅力ある食の発信を展開していくことを記載します。(33 ページ、35 ページ)

◆横断的戦略 1 札幌経済を支える中小・小規模企業への支援

内容	委員意見	対応の方向
①経営基盤の強化と付加価値の向上	1 ・小規模企業についてはしっかり下支えと書いてあるが、実際に小規模企業は、生活資金の融資、あるいは保険料の納付が厳しいとか、こういう実態がある事業所が少ない。 ・そこが中小企業と一緒に施策となると、求める部分もかなり違ってくるので、その辺はしっかり線引きをして、一緒くたにならないような出し方で応援していかないといけない。	・本市が実施する全ての中小企業支援策は小規模企業を対象としたものですが、特に経営基盤が小さい小規模企業の現状を踏まえた支援策を実施していくことが重要という視点を記載いたします。(43 ページ)
	2 就業規則や特許など専門的な知識を持つ専門家の派遣補助が必要。	・経営や融資などに関する相談業務や専門家の派遣についての視点を記載します。(44 ページ)
	3 創業も大事だが、廃業が多くなっている現状を考えると、企業の新陳代謝の促進という形で、事業承継という切り口を加えていったらどうか。	・事業承継に関する相談業務等を経済団体や金融機関と連携して取り組むことを記載します。(44 ページ)
	4 「入札制度改善による地元企業の受注拡大」は入札制度に限定されているような感じがする。例えば分離分割発注を増やすとか、官公需適格組合制度を活用するとか、そういう多様な形で中小・小規模事業者を受注が拡大、増大するような書きぶりにならないか。	・入札・契約に関する制度や運用について改善を進め、地元企業の受注機会の拡大を図る観点を記載します。(44 ページ)
②商業活動の活性化と流通機能の強化	5 商店街と地域団体の連携も大事だが、地域文化の継承の視点を入れられないか。地域の商店街などが頑張っている地域文化の継承をしており地域文化をなくさないようにしなければならない。	・「地域文化の継承の場」としても重要であるという記載を追加します。(45 ページ)
	6 中心部の商店街の免税など外国人観光客の消費を取り込むような視点を入れるべき。そして中心部を中心にして、今度は各区内に広げていくような取組も視点に入れるべき。	・外国人観光客の消費を取り込み、商業活性化を図る観点を盛り込みます。(45 ページ)

◆横断的戦略 2 札幌経済を発展させる新たな企業の創出

内容		委員意見	対応の方向
①企業立地の促進	1	「企業の本社機能や研究開発部門などの誘致」とあるが、なぜ本社なのかと思う。「企業の誘致」で十分なのではないのか。	・本社機能や研究開発部門については、一般に正社員の雇用が多く、大きな雇用・経済波及効果が期待できることから、今後、さらに誘致に力を入れていきたいため、このように表現しております。 (48 ページ)
	2	健康・医療分野の企業誘致について記載したほうがよい。	・本文に、健康福祉・医療分野の研究開発企業の誘致を推進することを記載します。(48 ページ)
②創業の促進	3	「創業の促進」について、早期からの教育ということ考えると、学校教育の部分と、札幌市の経済部門が取り組める部分については整理をして載せる必要がある。	・職業観の醸成など学校教育が担う部分もありますが、札幌市が取り組む部分では、創業に関心のある方や起業に向けた第一歩を踏み出す前の方を対象に、講座やセミナーなど創業に関する学びの場を提供することを記載します。(50 ページ)
	4	アクティブシニアの創業促進という視点も入れるべき。	・基本施策 1「創業前からの成長ステージに応じたきめ細かな支援」に、若年層から高齢者まで幅広い年齢層を対象とする旨を記載し、アクティブシニアの創業促進の観点を盛り込みます。 (50 ページ)

◆横断的戦略 3 札幌経済を担う人材への支援

内容		委員意見	対応の方向
全般	1	人手不足ではなく、人の財産というような概念で考えたらどうか。前向きな書き方で表したほうがいい。	・現状分析・課題においては、現在、企業が直面している課題として、アンケートの選択肢の文言どおり「人手不足・人材不足」という表現を用いております。 ・しかし、今後の産業振興の展開の記載においては、上記の課題に対応する方向性として「札幌経済を担う人材への支援」と表現しています。 (52 ページ)
①企業活動の源となる人材の確保と育成	2	セミナーや研修会は、若手や女性・高齢者だけを対象とするのではなく、受け皿である中小企業の経営者の概念を変えるためのセミナーが最も必要。	・女性・高齢者だけでなく、企業向けのセミナーも開催し、人材育成力を強化する取組を行います。 (53 ページ)
	3	医療・福祉分野では現場の環境整備を打ち出してほしい。今、本当に問題がある部分を改善していくような、その辺の視点を加えてほしい。	・介護人材などの医療・福祉分野に向けた人材育成の取組の視点を記載いたします。(53 ページ)

前回審議会 (H28. 3. 28) で頂いた主なご意見と対応の方向

資料 1

	4	育休の代替要員を採用した際に、具体的にどう運用していったらいいかわからないという声がある。助成金を出すだけではなく、コンサルなどの助言制度も必要。	・基本施策 2「女性が働きやすい職場環境の整備」において、企業向けセミナーなどを行う視点を盛り込みます。(53 ページ)
	5	・多くの企業が「人材を確保できている」とアンケート調査では答えている一方で、経営課題として、人材確保が上位に挙がっている。これは何を意味しているかということをもう少し読み込んで、施策に反映しなければいけないと思う。 ・企業が求めているのは、プロ人材、職能人材。企業側には、求める人材のレベルがあるので、それに応える学生を輩出するようにしないと、ミスマッチが起きるだけなので、書き込んでほしい。	・基本施策 3「北海道・札幌経済をけん引する人材の育成」において、企業が求める高度人材を育成する視点を盛り込みます。(53 ページ)
	6	海外展開が進んでいる中で、海外の留学生と企業との接点をいかにつくるかといった取組みも整理したほうがいい。	・外国人留学生の受入を促進するとともに、道内大学在籍の外国人留学生の就職・キャリア形成支援の視点を記載します。(53 ページ)
③女性、高齢者、障がい者の就労促進	7	女性、高齢者はもう潜在的な労働力ではないのでは。必要かつ重要な労働力であるというほうが、前向きに考えられるのではないか。	・ご指摘を踏まえて、「潜在的な労働力」という表現を見直すとともに、重要な労働力であるということに記載します。(56 ページ)
	8	女性が働きやすい職場環境の整備、女性のライフステージに応じた就労支援、意欲ある高齢者の就労促進など、働き続けるということは必要であり、大切なことだということを入れていただきたい。	・リード文において、ライフステージに応じた女性への就労支援や、高齢者などの就労を促進していくことが重要であり、企業側の受入環境の整備と就労者側への支援を一体的に推進していく旨を記載します。(56 ページ)
	9	働き続けたいと希望する女性への離職防止に向けた取組では、育休や時短、在宅勤務など、さまざまな働き方を選択できる制度の拡充といった具体的な文言を入れるべき。	・在宅勤務など企業の職場環境の整備に関する取組については、『①企業活動の源となる人材の確保と育成』の中で、基本施策 2「女性が働きやすい職場環境の整備」に位置付けています。(53 ページ)
	10	人材への支援について、障がい者の支援が全く抜けている。従業員数 50 人以上の事業主の義務として、障がい者の法定雇用率が 2% 以上なので、障がい者の問題を入れてはいかかか。	・基本施策 2「高齢者及び障がい者の就労促進」として、障がい者の就労支援の観点を盛り込みます。(57 ページ)